

オホーツクの地まきホタテガイ漁場では稚貝放流もほぼ終わり本操業に入りましたが、網走水試では先週、「オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報」を発表しました。(詳細は網走水試 HP をご参照ください。URL: <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/abashiri/>)

これまでオホーツク海ではホタテ貝柱の成長不良の年が幾度かあり、少なからずホタテガイ漁業の経営に影響を与えてきました。そこで網走水試ではこれまでの長期にわたる各種のモニタリングデータを基に、貝柱の歩留不良の発生を事前に予測する統計的確率モデルを開発し、平成 23 年から水試ホームページで「予報」としてお知らせしています。

今年の予報は、「6～10月の漁期中に貝柱の歩留不良が発生するリスクは極めて低い」となりましたが、その一方で「ホタテガイ成長モニタリング調査」の結果では、貝柱のグリコーゲン含量は例年に無く高い値となっています。グリコーゲンはホタテ貝柱の「味」の持続性や複雑さ、こく、まろやかさなどを強める「プラス要因」ですが、貝柱の性状は例年と大きく異なっているようです。網走水試では今年の漁場の環境やホタテガイの成長に関するデータ、加工・流通現場の状況などの情報をできるだけ収集し、今後のホタテガイの生産や加工・流通の安定化に向けた取り組みに役立てたいと考えています。

さて、話は変わりますが、北海道の味覚として人気が高く、観光資源としても重要なケガニはオホーツク海(宗谷管内を含む)で全道の約 50%が漁獲されます。今年も海明けから始まった管内のケガニ漁は漁期前半が終了しましたが、4月に網走水試が実施した「オホーツク総合振興局管内ケガニ漁場一斉調査」の結果では、甲長 8cm 以上雄の CPUE (1 隻 100 かご当たりの漁獲尾数)は昨年 の 3.2 倍でした。この一斉調査での CPUE を反映して、オホーツク総合振興局の集計によると 6 月上旬までの水揚げは約 280 トン(許容漁獲量の 47%)で、昨年同時期の約 2 倍となっています。

これから管内のケガニ漁は漁期後半に入りますが、網走水試では管内各漁協のご協力を得て来週 6 月 17 日から 7 月 3 日までの予定で「ケガニ資源密度調査」を実施します。この調査結果は、オホーツク海海域のケガニ資源の有効かつ持続的な利用を図るための資源評価や ABC(生物学的許容漁獲量)の算出および許容漁獲量設定のための基礎資料となります。なお、調査結果は「速報」として 7 月下旬に管内各漁協はじめ関係機関にお知らせする予定です。

最後に、管内の市町・漁協・水産加工協を対象に例年実施している「巡回訪問」を今月下旬から予定しています。水試の試験研究の状況をお伝えするとともに、浜の課題・問題などを直接お伺いして、今後の水試の取り組みに反映させたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

(網走水試 野俣)